



消防団に入って得られるものは知識や経験以外にも—— 利根町消防団 飯嶋 富雄 団長

今は団長という重責を預かってるので、私の立場としてまずは団員にケガをさせない、それから被害を拡大させない、その二つを心掛けています。

消防団員には、普段は楽しく、その代わり災害が起きた時にはみんなでしっかりスクラム組んで町を守っていこうと伝えています。消防団にはいろんな職業や年代の人がいます。そういう人たちと関わっていく事で、社会で壁にぶつかった時の乗り越え方なども身につくのではないかと思います。社会に貢献する事によって、自分のストレスが減ったり、知識を高め

られたり、いろんな面ですごくプラスになると思います。そういう事も含めて、消防団をうまく利用してほしいですね。

50年間消防団として活動してきた、ここ数年は本当に災害が多くなったと感じます。町の高齢化が進むことによって、これからは災害時に人手が足りなくなり、その事が被害を拡大させる要因になるという事を念頭に置きながら活動をしていかななくてははいけません。想定外の災害にも対応し、みんなで地域を守っていききたいと思います。



上_ 10/29に行われた永年勤続功労章の表彰式で謝辞を述べる飯嶋団長 右_ 普段は農家の仕事をしている飯嶋団長。奥様と二人三脚でお米を作っています



消防団になりませんか

利根町では消防団員を随時募集しています。女性も活躍しています。興味がある方は近くの消防団員か防災危機管理課までご連絡ください。



【問合せ】
防災危機管理課
0297 (68) 2211 (内線 321)

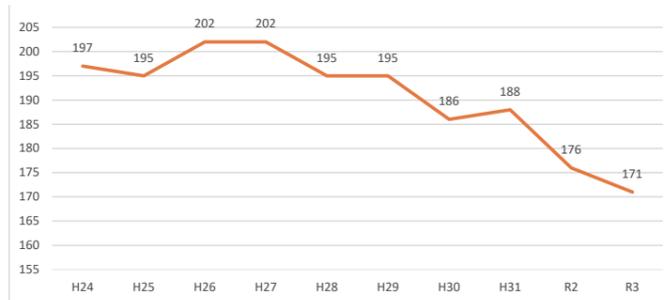
高齢化が進み、災害時には地域のつながりが今以上に求められるようになりました。日頃からつながりを持っておくことで、助け合いの気持ちを育て、多くの情報を共有できるようになります。そして日頃から備えておくことが、いざというときに自分を守ることに繋がります。地域や消防団の助けになります。消防団の活動を知って、地域とつながり、日頃から備えておくことで、災害に強い町にしていきましょう。

災害に強い町に

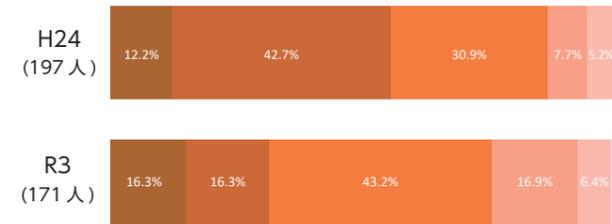
現状を改善するためには、家族や地域に、消防団がどのような活動をしているのか、その存在の重要性を知ってもらうことが大切です。若い世代の人たちに、消防団について知ってもらい、地域に貢献する大人たちの素晴らしさを学んでもらうことが、消防団や地域の未来を支えることにつながります。

家族や地域を守り続けるために

利根町消防団員数の推移 (人)



利根町消防団員数の年代別割合の変化



水出し操法訓練の様子。消防隊員の方も立ち合い、手順をしっかりと確認

活動を維持するための課題
消防団は地域の防災に欠かせない存在ですが、活動を維持する為には課題があります。
一つは団員数の減少と高齢化です。平成24年の町の消防団員数は197人でしたが、今年までに26人減少しました。年代別の割合では、30歳代以下の割合が少なくなり、40歳代以上の割合が増えています。
もう一つは、消防団を取り巻く社会環境の変化です。かつては自営業や農業を職業とする団員が中心でしたが、今は会社員などの被雇用者が増加。町外で働く人も増え、勤務中に火災や災害が起きても職場を抜けられず、現場に駆け付けられないという人が多い現実もあります。
内閣府が平成24年に行ったアンケートでは、消防団に「入らない」と答えた人が72・6%もいました。理由は「体力に自信がない」「高齢である」「職業と両立しそえない」の順で多く、「職業と両立しそえない」と答えた人の割合は29・6%を占めました。

女性消防団も

頑張っています！



平成30年に茨城県庁で開催された県女性消防団員活性化大会の様子。防火・防災啓発について発表しました

消防団員数が減少している一方で、全国的に女性消防団員数は年々増加しています。それぞれの地域の実情に応じて、消防団本部付けの採用とされたり、各地域を管轄する分団に所属したり、女性のみで組織する分団に所属したり、活躍の形態はさまざまです。
利根町消防団では、本部付けの女性消防団員所属が5名、分団の所属が1名、計6名の女性消防団員が活躍しています。



今年の11月からは、新たな活動として、女性消防団だけによる夜警が始まりました。去年までは本部団員と一緒に司令車に乗って実施していましたが、今年からは女性団員だけで火の元の注意を呼び掛けながら町を回っています。去年までは11月～3月のみ実施していましたが、これからは女性消防団が一年をとおして、防火の啓発を実施していきます。